

県指定 史跡

白潟遺跡



白潟遺跡は、城山の西山麓にある若宮八幡宮横の丘陵に存する。この遺跡からは、弥生時代の2つの貝塚と竪穴式住居や土器、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、土師器、蔵骨器などが発掘され、この台地が弥生時代から奈良・平安時代に至るまで、人々の生活の場であったことがうかがえる。貝塚からは貝類のほか、獣骨、魚骨、石包丁、土器など多数の遺物が出土した。なお、下城式土器と呼ばれる甕形の弥生土器は、東九州に特有な地方色を有するものとして、分類・編年されている。また、この遺跡は弥生人の住居に最適な自然環境であり、当時の汀線を考え、海進状況を想定するのに格好な遺跡でもある。